

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.12.25,2012.1.5 No.124 連絡先 FAX 042-555-1911



## 2012年 航空自衛隊「横田基地」が新設される年！



第5ゲート（写真）は、11月14日から、米軍と自衛隊が使用を開始しています。ゲート入り口の看板は、左側だけ名前が入っています。自衛隊員は現在110名ほどですが、2012年3月末に約800名になり、航空自衛隊「横田基地」が新設されます。

米軍横田基地に移転する部隊は、府中基地の航空自衛隊航空総隊司令部並びに関連部隊の作戦情報隊、防空指揮群、気象関連部隊及び警務関連部隊です。航空機部隊及び航空機が常駐する予定はない、ということですが、最近戦闘機をはじめ、飛行機騒音が激しくなっています。

「今回の航空総隊司令部等の移転により、わが国の防空や弾道ミサイル防衛における情報共有を始めとする日米の司令部組織間の連携が強化され、このようなインターオペラビリティの向上が図られる」と、北関東防衛局は2011年1月31日に福生市長への回答で述べています。

防空・弾道ミサイル防衛とは、情報共有とは等々、しっかり学ぶことが求められています。



### 横田基地で不発弾が発見され 爆破処理される

12月6日、米軍横田基地のフィットネス・センター正面付近のサッカー場整備工事の現場で、不発弾が発見されました。

不発弾は第2次世界大戦当時のもので、縦120cm、横約90cmで重さは50kg。7日、横須賀海軍基地の爆発物処理班が爆破処理（左写真：米軍HPより）しました。以上は12月の福生市議会基地対策委員会で説明され質問等で明らかになったことです。さらに、議員には情報が寄せられたが、福生市のホームページなどに掲載されていないのはなぜか質問があり、市は「市民に影響がない、不安をあおってはいけない、市民に必要な情報ではない」などと答弁しました。市民に影響がなくても、事実として市民には知らせてほしいものです。

### 嘉手納基地のゴルフボール状アンテナ 「機能強化だ」と議会 横田は？



沖縄の米空軍嘉手納基地で、ゴルフボール状通信アンテナ施設（写真）が発見され、嘉手納町議会は基地強化につながると、9月議会で航空機事故問題などとともに意見書を上げています。

しんぶん「赤旗」紙が嘉手納基地報道部に問い合わせたところ、同施設は米国予算で建設された通信アンテナで「（軍事）作戦を容易にするために基地内の反対側に移設した。通信網の維持が目的で、精密機器を保持するため、白いカバーで覆った」と回答しましたが、機能・役割などについては「運用にかかわる」などと明言を避けているそうです。横田基地にも、嘉手納基地と似たアンテナがあることが分かりました。横田のアンテナ、基地は明確な説明をしてほしい。

## 「辺野古の海にも陸にも新しい基地はつくらせない」

(No. 124 の裏面)



日本平和大会の閉会総会（11月27日）での稲嶺進・名護市長の挨拶が今回の平和新聞に載っています。2010年1月の名護市長選挙の勝利を実感します。2011年11月14日には沖縄県議会が「米軍普天間飛行場の辺野古移設に反対し、環境影響評価書の提出断念を求める意見書」を全会一致で採択しました。

2011年12月19日には沖縄県の各界を代表する著名人が、県議会意見書賛同アピールをしました。

アピールは、「『普天間基地の閉鎖・返還、県内移設反対』は今や県民の総意」とのべ、県議会の「意見書」に賛同しています。

呼びかけ人は、敬称略、あいうえお順で、新崎盛暉（元沖縄大学学長）、糸村昌祐（元沖縄高専校長）、稲嶺恵一（元県知事）、伊波洋一（前宜野湾市長）、大城純市（沖縄弁護士会会長）、大城節子（沖縄婦連会長）、大田昌秀（元県知事）、尚弘子（元県副知事）、平良修（牧師）、高里鈴代（行動する女たちの会）、玉寄哲永（沖子連会長）、比嘉幹郎（元県副知事）、福地曠昭（元沖教組委員長）、宮城信雄（沖縄県医師会会長）、宮里政玄（沖縄対外問題研究会顧問）、由井晶子（ジャーナリスト）、吉元政矩（元県副知事）の県内の17氏です。

2012年を、新しい沖縄の歴史をつくる年に、私たちも沖縄と心ひとつにがんばりましょう。

### 国が住民を訴えた高江ヘリパッド訴訟が結審 判決言い渡しは3月14日

沖縄県東村高江の米軍ヘリパッド（ヘリコプター離着陸帯）建設に反対し、話し合いを求める住民2人を国が訴えた裁判の第13回口頭弁論が12月14日、那覇地裁で開かれ結審しました。

最終弁論で被告とされた伊佐真次氏は「（更迭された）前沖縄防衛局長発言（犯す前に言うか）は、基地建設が犯罪的であることを自ら認めたようなもの。そのような基地建設から自分たちの生活を守る行動は正当なものと確信しました」と語り、安次嶺現達氏は「私たちの行動は非暴力の正当なものです。これからも今まで通り声をあげ、胸を張っていきたい」と訴えました。

素晴らしい陳述です。犯す！基地建設をすることはまさに、平和を犯す行為なのです。「行動は非暴力の正当なもの」と胸を張る姿勢、本当に励まされます。判決言い渡しは3月14日です。

---

### 「沖縄の美術シリーズ3 玉那覇正吉（たまなはせいきち）展」に寄せて

玉那覇正吉（1918 - 1984）は那覇市で生まれた。1944年、東京美術学校彫刻科を卒業。終戦の年は東京にいたが、3月空襲で家を焼かれ、川崎の姉の家にとらしい。1945年4月、川崎大空襲があり、姉とともに娘たち4人を背負ったり手を引いて、猛火の中を逃げた。終戦後、沖縄に戻り創作活動をする。1950年には「健児像（右側）」制作、1951年には「ひめゆりの塔」設計、「乙女像」を制作。1966年には那覇市役所首里支所に「竜」のレリーフを制作する。

これらは米軍占領下の時代だ。考えてみると玉那覇正吉は戦前の時代が27年、米軍占領下の時代が27年、復帰後は12年きり生きずに他界した。玉那覇正吉は母の実弟で、私の叔父である。あまり交流もなかったが、この年齢になり私のルーツや叔父のことが気になってきていた。

2012年1月11日から3月11日まで、おもろまちの沖縄県立博物館・美術館で玉那覇正吉展が開催される。叔父は鎮魂の絵をかき続けた。その絵と彫刻を見たいと思う。（高橋美枝子記）